幸せになるための教育を実現する会議　議事録

日　　時　　　令和４年６月８日（水）午後３時～午後５時
場　　所　　　庁議室
委　　員　　　神谷、鈴木、大崎、三浦
そ の 他　　　市長、企画部長、学校教育課主任指導主事、企画課長
議事録作成者　企画課　内田

■市長の想いの共有について

○市長

　幸せを考える時に、他者との比較で優劣をつけ判断していることに違和感がありました。自分の満足感が得られたものに幸せを感じるものであることが重要であるのではないのでしょうか。他者との比較で優劣をつけるのではなく、人それぞれの価値観が重要です。そのため自分で考えて、これでよいと思える、自分自身で幸せと感じることができるようになることが必要です。市長として市民の皆さんに幸せになってもらうために何が必要かと考えたときに、皆さんで幸せが何であるかについて考える場や時間を増やすことに取り組む必要性を感じました。そこで、まずはその世代のほとんどの人が参加することができる教育現場で、取り組んでいきたいと思いました。

○委員

　幸せ論を学校現場で取り扱うことはありません。個人的見解ではありますが、子と関わる教員や保護者がまず考え、子どもたちと一緒に考えていく必要があるのではないでしょうか。

　学校現場で扱うとするなら道徳教育の一環としてとなるでしょう。心のありようが重要であると思います。

○委員

　道徳の時間などで取り上げられる題材を、自分事と感じたうえで考えられると良いのではないかと思います。

○市長

　率直な意見を委員の皆様にお伺いしたい。

○委員

人が幸せになるための条件についてもっと幅広に議論する必要があると感じました。この会議の中では他者との比較についてのみならず、もっと広い範囲で議論する必要があると思います。内閣府の『国民生活に関する世論調査』によると、2010 年時点で 20 代の約 7 割が現在の生活に満足していると答えています。古市憲寿は著書の中で、「自己充足的」で「今、ここ」の身近な幸せを重視している結果として、それで良いと書いています。今、自分だけ幸せであればそれで良い、その考え方に私はショックを受けました。
今の日本人は、何のために生きているのかを答えられる人がどれだけいるのでしょうか。この現状を変えるためには、教育を見直さなければならない。半田から日本の教育を変える気概で、この会議からそれを発信したい。

○市長
比較して優劣を決めることを全く否定しているわけではありません。しっかり考え、視野を広げた上で、幸せにたどりつくのであればいいのではないかと思います。重要なことは考えることと、幸せを語ることが必要だということです。

○委員
人間は、自分の欲求や目標が満たされたときに喜びを感じて幸せを感じます。その次にさらなる高い欲求や目標がでてきます。それとは別の次元で、友達、教員、親などから褒められると、幸せ感が増幅されます。また、自分の欲求や目標を達成するうえで褒められるだけでなく、相手に何かしてあげたり、喜ばれたり、ありがとうと言われることも幸せを感じます。学校教育現場の中でこのような好循環が生まれる土壌を作ることが理想であると思います。
しかしながら、実際の学校教育現場でこの好循環を作ることはなかなか難しいことです。運動会でもみんなで頑張って喜びを感じることはできますが、徒競走で順位が悪かったからつまらない、騎馬戦の下より上が良かったなど、自分の欲求が満たされない悔しさや不平不満を感じている子がいるのも現状です。

○委員
戦後の日本の復興では一部の人が方向を決め、みんながそれに向けて一生懸命に走ることによって成功しました。しかしこの手法は、通用しなくなりました。多様化が進み、一部の人が決めた方向が良いわけではないのです。運動会も必ずしも全員で盛り上がることが良いことではなくなったのです。褒めることについても、「嫌われる勇気」（岸見一郎／古賀史健）の中では、承認欲求は他者から褒められることが行動基準となってしまい、褒められないと不満を持つようになってしまう、と書かれており、私も同感で賛成できません。これからは、自分で考えて、自分の道をしっかり歩んでいくことが重要です。学校の教育現場でもティーチ

ングは止めて子どもたちに自由に考えさせ意見交換をする。それによって素晴らしい発想が生まれてくると思います。

○委員
　運動会が良い悪いではなく、運動会が楽しくない子でも違った場所で光るところを周りの人が認めてあげられることが重要だと思います。人のことは関係ないではなく、頑張っているところを認めていくことが必要です。

○委員
　我々大人や上位者が、自分たちの考えを強要してはいけないと思います。民間企業は生き残りをかけていますので、考えは変わっています。教育現場や役所ではこのような発想が残っているのではないでしょうか。

○委員
　私は運動会が楽しいものと思っていました。いろいろな視点を持つことが大切であると気づきました。

○委員長
　幸せ教育を進めるうえで、重要なポイントは、幸せは人が決めることではなく、一人ひとりが考えていくことで、これを教育の中に取り入れていく、ということでしょうか。

○市長
　ある方針や基準に基づいて、教員で自由に考えて実践してもらうことが良いと考えています。教員が自由に考え実践できない環境をどうにかしていきたいと思います。
　それを打破するためにこの会議の中で議論していきたいです。ただし、私にもこのテーマで進んでよいかの不安はあります。また、自分で考え、幸せにたどりつくといいながらも、市長としてどのように、どの程度、関わっていくかも答えが出せているわけではありません。

○委員
　幸せ教育を訴えて、選挙で選ばれたのだから自信を持って進めるべきと思います。

○委員
　私は感謝の気持ちを育ててほしいと思います。

○委員

教育が目指すべきことは自律です。そのためにコーチングが非常に重要です。また、考える力が必要です。偏差値の高い高校に入ることが良いことではなく、子どもがしっかり考えて、出した答えを、親も社会も認める社会にしなくてはなりません。

○委員長

まとめると、教育で重要なことは一つの答えを与えることではなく、子どもたち一人ひとりが考えることです。

○委員

幸せについて自分で考えられる、他者のいろいろな考えを尊重できるようになるとよいです。親としてもそのような教育が行われることは理解しなくてはならないと思います。前回の会議をきっかけに自分の子に対し、いつもの命令口調ではなく、○時までにこれを終わらせないといけないけどどうすればよい、と伝え方を変えてみました。ちゃんと行動してくれました。学校だけでなく、家庭でも自分で考えることを取り入れられると良いと思います。

〇市長

学校での取り組みを効果的にするには保護者理解は必要です。学校の取り組みは道徳になると思いますが、ホームページなどで伝えていく必要があるかもしれません。

幸せになるために自律と相互理解はキーワードになってくると思います。教育現場では教員が自由に考えて大切だと思うことを拾い集め、授業で展開していくことが良いと思います。

○委員

市長の言うような授業が展開されていけば、提案をしてくる子どもの声が出てくると思います。

学校での取り組みを保護者が否定すると、子どもが受け入れられなくなってしまうと思います。

○委員

人が幸せになるために学業、科目の授業をどのように考えるかを議論する必要があると思います。必要な部分ではあると思いますが、幸せにどのようにつながっているかの議論が欠落しています。この問いに応えられる教員になってもらいたい。

○市長

幸せを考える意味でも学力は土壌になるものだから大切であると思います。教員が小学

生に学校での勉強（教科）が幸せにどのようつながっていくかを語ることは非常に難しいと思いますが、考えてほしいことではあります。

○委員
　教員は、授業を教えるということが自分の幸せにどのようにつながっていることを生徒に伝えてほしいと思います。失敗談、自分の誇り、なぜ自分は勉強したのか、教員になったのかなどを語ってもらいたいです。

○委員
　学生時代の授業中の先生の脱線話や想いはすごく楽しく聞けたて記憶にも残っています。

○委員
　教員はその専門の科目を好きだからやっていると思います。なぜ好きなのかというと、自分が知らないことがわかっていく発見がうれしいからだと思います。これが勉強の原点ではないでしょうか。義務教育ではやらざるを得ない基礎的な勉強もありますが、併せて興味を持ったらどんどん勉強を進めればよいということです。それを、子どもに伝えられれば良いと思います。

○主任指導主事
　教員が自分のことを話しているとき、子どもは興味をもって聞いています。現在の教育現場でも実践できている教員は多くいると思います。ただし、科目の授業と関係のないことを絶対授業でやりなさいということもちょっと違うのではないかと思います。

○市長
　幸せについて考えて自律してもらうために、ある程度の自由をもって授業を行って良いという方針を示してあげ、先生が考えて自分のスタイルに合った授業をしてもらうことがまず必要であると感じます。

○委員
　幸せの授業と道徳の授業の違いについて議論が必要です。私は、学校教育のゴールは幸せで、道徳の授業は手段の一つという点で一緒ではないと思っています。私の道徳の授業についての理解が十分ではありませんので、次回の会議までに道徳の授業についての資料をお願いしたいです。

○委員

道徳科も文部科学省の学習指導要領で定められています。道徳科の内容項目は、22 項目（小学校１年及び２年は 19 項目、３年及び４年は 20 項目）にまとめられています。思いやりや感謝、家族愛などの 22 項目について発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え授業を行っています。

○委員

2019 年度から教科化しましたが、教科化による変化や、評価はあるのでしょうか。また、国の方針がある中で、半田市が幸せ教育に取り組むことは可能でしょうか。

○主任指導主事

学習指導要領の基準に合致する必要はありますが、議論をしている幸せ教育自体が相反するものではないと考えていますので、半田市で取り組むことはできると思います。

〇委員

① 9 行目 「幸せになれる半田市、幸せあふれる半田市」とは半田に住むと幸せになれるとの解釈でよいですか。

② 14 行目 市民一人一人に「異なる幸せがある」と考える中で、学校教育という集団教育の場で考えてもらうのは非常に難しい取り組みではないですか。

③ 19 行目 「他者との比較で一喜一憂」についても幸せの一つになるのではないかと考えますがいかがですか。

④ 23 行目 「半田市は後押しする立場」では幸せになれる半田市を主体的に取り組んでいく市長としては、他力な印象を受けますがいかがですか。

⑤ 27 行目 「子どもが変われば、大人への影響が期待」ではなく、影響力が強い大人を変えていくことで、その影響を受け、幸せを考える子どもが育つと思います。

○市長

① 市民一人一人が自分自身で努力する必要もあります。

② 難しい取り組みであることは承知しています。今までのように一律に考える力を養うための授業だけではなく、自律のために自分で考えてもらうことが必要になります。どのように取り組んでいくかはこの会議の中で議論していくテーマになります。

③ その考え方は否定しません。しっかり考えた上であればよいと思いますが、なんとなく比較したもので、幸せかどうかを判断してほしくないと思います。また自己中心的なことで幸せに感じてほしくもありません。

④ この表現で伝わるか悩んだ部分です。私は幸せを自分自身でつかむものだと思います。

行政の役割は幸せについて考えてもらう、幸せが実現できる環境を作っていくことだと整理しています。

⑤ 子どもが変われば大人が変わるとは考えていませんし、表現していません。大人を変えていくことは非常に難しいことです。大人が変らなければいけないという結論になれば、取り組んでいく必要があると思います。

○委員

大人を変えていくことは非常に難しい取り組みであり、子どもへの教育によって 10 年後、20 年後の日本を変えていく取り組みが現実的であると私は思っています。

○委員長

次の 2 点について整理をしなくてはならないと思います。

・決められた概念だけの話で終わってしまってはいけない。（自律して考えて、幸せになるための取り組みを行う必要がある。）

・なぜ半田で幸せについて考える必要があるか。

■課題の共有について

○委員長

前回からの課題で教員が忙しすぎる点がありますが、ご意見をお願いします。

○委員

久世市長が新たな取り組みを教育現場にプラスして取り入れていこうというのであれば、現時点でも多忙であることを改善する必要があります。新しい取り組みをするために先生たちが何を望んでいるのか現場の意見が知りたいです。現場の教員の要望を集めていただいてできることを最大限実施していく、この会議の取り組みは教員と一緒に取り組まないと意味がないと思います。

○委員

現場の教員と保護者で感覚が異なるかもしれませんが、保護者側からすると、連絡アプリの導入やタブレットを活用した改善ができるのではないかと思います。重要なのは教員の業務改善につながる取り組みが必要だと思います。

○主任指導主事

欠席連絡アプリなどは業務改善につながる提案だと思います。令和 2 年から時間外の電

話を自動音声で対応するなど改善も行っています。現場の教員に何が必要かは大々的な調査は行っていませんが、教員や支援員などの増員、特別支援教室や体育館のエアコンの設置の要望があがっています。

○委員長
この会議で現場の後押しができればよいと思うので、教員の要望をまとめていただけたらと思います。ただし、負担の軽減は目的ではなく、幸せ教育に取り組む必要があるから負担を軽減することが大切です。そのためにどのようなことに取り組みが行えるかというような現場の声が聴けると良いと思います。

○委員
市長が現場の教員の意見を聞くことも組織の活性化につながると思います。また、人員の要求は無限に出てくる。決まった人員の中でやりくりする発想を持たないといけないと思います。

〇市長
業務改善も行っていただく中で、市としてできる協力もあるかと思います。学校だけの範囲で考えるのではなく、市役所が協力することで円滑に行えることがあれば教えてください。教員の意見や考えられる幸せにつながる取り組みを実施すると考えた時の課題を教えてもらえるとありがたいです。実際に取り組む場合でも、負担が大きいようであれば、モデル授業での実施や、複数の教員で協力や意見交換をするなど、実施の方法も考えていければよいと思います。

〇委員
考えることは場所や時間を問わずできると思います。考えるための時間を作るために人員を増やすのは反対です。

〇事務局
第 1 回の会議でも申し上げましたが、アンケートは事務局で作成してみます。幸せ教育を実現するのにあたって、教員のアイディアと、そのための課題（忙しすぎるなど）の 2 点を聞くアンケートを作成します。負担をかけないように簡潔なアンケートにしたいと思います。実施方法、時期については教育委員会と相談して決めたいと思います。

〇委員長

委員との情報共有はメールなどでしてもらい、アンケートは進めてください。また、人が足りることはない前提で考えなければいけないと思います。

次回の会議では、次のことについて話し合いたいと思います。

・幸せと道徳、教科（学歴）について議論を深める。

・大きな目的、目指すものをこの会議として、まとめ、共有する。

■その他

〇委員長

元麹町中学校長の工藤勇一氏の講演動画を皆様に共有しました。半田市でも講演会が行えないか調整していきたいと思います。半田市が行おうとしていることの参考になると思いますので、現場の教員も聴講できるよう検討していきますのでご承知おきください。

＜終了＞